



大石良太

高9期

洋画家 フランス ベルサイユ在住



祝 創立100周年……「やっぱり積み重ねが大切やなあ。」

もともと自分が何になりたいとか、どこの学校に行きたいという希望もなく、ここやったら行けるやろという中学校の先生の進言で入学した。在学中はしんどい事と嫌な事はできるだけ避けて過ごしてきた。月例マラソンと金剛山耐寒登山は欠席、学業も常に最下位あたりで、早く授業が終わるのを待ち、帰っても何もすることがないのに一目散に下校した。

思い出としては昼休みに皆がやっているソフトボールの外野の後ろの球拾いと学校裏にあった溜池でメダカなどの水中生物を見るのが好きだったが、その池は残念だがもう無い。世の中に出てからもいろんな職業を転々とした。興味のあるはじめは思い切りメチャクチャ働くが、だんだん先が見えてくると面白くなって辞めた。自分でも会社を設立し、商業デザイン、商品化計画などの仕事をした。1974年フランスパリのアカデミーグランシヨミエールでの洋画研修がきっかけとなり、すべての仕事を止めて絵の道に入った。

「背水の陣で挑む。」

1984年、家も絵もお金になるものみんな売って妻と子供4人を連れて、あのセザンヌ、ゴッホ、ゴーギャンのいたフランスへ。まるで移民みたいだったと見送りに来た義姉は言っていた。ベルサイユに着いてから毎日、朝昼晩3回少々の天候不順でも街角にイーゼルを立て描きまくった。絵は先が全く見えないからコツコツやるしかない、そして絶対にひるんたらアカン。

「同窓生はホンマにええもんや。」

2010年、大阪高島屋での個展が知れて、来てくれた同窓生のおかげで、記憶の奥にしまっていた50年前の高校時代に戻ることができた。帰朝の度に皆とあって、時を超え楽しく過ごすことができるのは本当にいいものだ。学校の良さというものはこんなもんかも知れない。

■プロフィール

1943年 大阪に生まれる

1974年 渡仏、アカデミーグランシヨミエールにて洋画研修

1984年 家族共々、ベルサイユに定住する

1990年 ベルサイユ市立カレ・ア・ラ・ファリヌ落成記念個展

2010年 アカデミーベルサイユ賞受賞

2014年 Fonds Ryota OISHI がベルサイユ資料館にできる

2017年 フランス共和国政府から芸術文化勲章シュバリエ受章

2019年 紺綬褒章受章

現在、ポントルソンにてモンサンミッシェル100景制作中